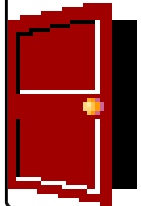


《読書活動の楽しさと大切さを伝えたくて》



# 読書活動への扉を開く！

桑村小学校 令和4年6月13日 文責 渡邊

読書活動推進リーダーとして新たに4名参加していただくことになりました。(『読書活動への扉を開く』6月3日号でお知らせ済みですね!)第6学年金原一花さん、若林柚羽さん、高橋理桜さん、大門由依さんです。

6月2日(木)の昼休みに、校長室において任命式を行いました。4人のリーダーは、5月31日(火)の朝会で、校長と6年生の読書活動推進リーダー(3名)による図書の魅力と読書活動の効果の発表を見て、「私たちも、ぜひやってみよう」という思いをもったとのことでした。とても嬉しく思いました。

初めてとなる「読書活動推進会議」では、自己紹介とともに図書の魅力について自由に語り合いました。参加したリーダーからは、「SFものが好き」、「私は、スリラーものが好き。ドキドキしながらページをめくる感じがたまらない」等の意見が出されました。

「校長先生は、どういう分野が好きですか？」

おっと、ここでリーダーからの質問です。

「先生は、仕事の関係で教育書を多く読みます。最近読んだ中では、『深い学び』(田村学著)、『10年後の子どもに必要な「見えない学力」の育て方』(木村泰子著)、『学校の「当たり前」をやめた』(工藤勇一著)、『読書をする子は〇〇がすごい』(榎本博明著)を楽しく読みました。新書では、『人生を面白くする本物の教養』(出口治明著)がお勧めです。とても面白く読むことができました。小説では、『本日はお日柄もよく』(原田マハ著)、『ライオンのおやつ』(小川糸著)、そして、『コーヒーが冷めないうちに』『想い出が消えないうちに』『この嘘がばれないうちに』『さよならも言えないうちに』(川口俊和著)がとても好きです。この他にもたくさんありますよ。また、時間があるときにお話できるといいですね」

昼の時間帯の短い間でしたが、6年生のリーダーと楽しく図書について語ることができました。

「校長先生、本をお借りしていいですか？」

帰り際に、リーダーからの嬉しい申し出です。

「どうぞ、いいですよ！気に入った本がありましたら家で読んでください。」

校長室の書棚には、小学生にとっては難しい図書が並んでいます。しかし、この時期、いろいろな図書を手にすることは必要なことであると思われま

す。これから、図書の魅力について、読書活動推進リーダーを中心に、桑村小の友達に広げられたらよいと思います。



【リーダーの任命】



【リーダーと記念撮影】



【読書活動推進会議の様子】



【校長室の図書を手に取るリーダー】

『お気に入りの一冊をあなたへ読書推せん文コンクール』の案内にあるホームページ上に、作家の三浦しをんさんが、以下の文を寄せていましたので紹介します。

## もっと楽しくなる小説の読み方

小説家 三浦しをん

小説を読みながら「自分が消える瞬間」を味わったことはありませんか。物語の中に入り込み、登場人物が体験したり考えたりしたことを自分もリアルに感じ取る。私はこの瞬間がたまらなく好きなんです。この状態になると、しばらく現実世界に帰ってこれなくなってしまう。続きが読みたくて、ごはんを食べるのも忘れてしまうくらい(笑)。私は物語に溶け込む一瞬を求めて、本を開いているのだと思います。

一方で、「つまらない」と感じる本を読むのも好きなんです。つまらないと思ったら、「こんな展開になったらおもしろいのにと想像してみます。それで、想像通りになったら、「やっぱりな」と思いますし、想像の範囲を超えるような展開になったら、「すごい！この発想はなかった」と感動する。書かれていることをただ受け止めるのではなく、自ら作品に積極的に参加することで楽しんで読めることもあるのです。

それに、たとえ一度は「おもしろくない」と感じた作品でも、何年か経った後に読んでみるとすごくおもしろく感じることもあります。だから、一度読んでおもしろくなかったものを「つまらない」と決めつけないほうがいいです。私も子どもの頃には漢字が難しかったり読み通せなかったりして、投げ出した本がたくさんあります。無理をして読む必要はなく、もっとおもしろそうな本が見つければ気軽にそちらに移っていい。一度途中で閉じた本に、自分が成長したタイミングで再会し、大きく心が揺さぶられることも多いのです。

また、一回読んだ本のかげらが自分の中に残って、どこかのタイミングで芽を出すこともあります。読んでいるときにすべてを理解し、味わい尽くす必要なんてないのです。

「読書はおもしろくない」と思っている人は、もしかしたら正解を探すような読み方をしているのかもしれない。例えば、本の裏表紙や帯にあらすじが書いてあることがありますよね。そのあらすじに囚われてはいないでしょうか？あらすじはあくまで編集者の読み方にすぎません。その通りに読む必要はまったくないんです。(中略)

本は娯楽の中でもとても手軽です。体力もいらなくて、友達が忙しくてもひとりで楽しめます。しかも、本の中では見知らぬ遠い土地に行けたり、現実には出会えないような人と出会えたりもする。だから気軽な気持ちで手に取って、本の世界を楽しんでみてください。

そうそう、三浦しをんさんの『舟を編む』(光文社)もおもしろい図書ですよ！

----- 切り取り線 -----

「読書活動の扉を開く」(6月13日号)を読んだ感想

( )年( )